

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：34327

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12194

研究課題名(和文) 看護の質の本質の解明 - プロフェッショナリズムと職務モチベーションについて -

研究課題名(英文) Elucidating the nature of nursing quality: Professionalism and work motivation

研究代表者

菅田 勝也 (Kanda, Katsuya)

京都看護大学・看護学部・教授

研究者番号：20143422

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：看護職が専門職として潜在的に有す態度や行動様式は、実践行動を一定方向に向けて生起させるものであり、これらは看護の質の本質だと考えることができる。本研究では看護職のプロフェッショナリズムと職務モチベーションに着目して、それらが看護職の仕事実感、患者の入院中の経験、および各種臨床指標とどのように関連しているか検討した。21病院150部署の協力を得て調査した結果、看護職のプロフェッショナリズムと職務モチベーションは、彼らの実践行動に深く関わり、患者の満足度や看護職への信頼に繋がっていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護の質を保証する組織文化に深く関わる個人の特性の記述が可能になり、それが看護の質の様相をどのように規定しているか明らかになった。この結果は、看護の質への介入に新たな視座をもたらすもので、延いては、医療の質を向上し国民の健康に資すると期待できる。

研究成果の概要(英文)：The implicit attitudes and behavior patterns that nurses possess as professionals generate their practice behaviors in a certain direction, and these can be considered the nature of nursing quality. This study focused on nurses' professionalism and work motivation, and examined how they are related to nurses' perceptions about work, patients' experiences during hospitalization, and various clinical indicators. Results from a survey in 150 units of 21 hospitals revealed that nurses' professionalism and work motivation are closely related to their practice behaviors and linked to patient satisfaction and trust in nurses.

研究分野：看護管理学

キーワード：看護師 看護の質 専門職 プロフェッショナリズム 職務モチベーション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

医療の質についてドナベディアンは、構造・過程・結果の3つの側面があるとした。看護の質に関する研究でも長い間、このモデルに沿って質を表す指標を定義し、開発し、測定する研究が行われてきた。その目的は、看護の質の水準を示し、各施設がベンチマーキングによってベストを志向して継続的に改善することを進めるということである。¹⁾

このような活動では、管理者が強い意志を持って推進することによって、組織の構成員間で質の高いケアを提供することの価値が共有され、それによって組織全体の価値観や行動原理が形成され、質保証文化と呼べるような文化が創造されていくことが期待される。

同じくドナベディアンは医療の質が評価される水準を示し、中核にあるものは、医師やその他の医療提供者が行うケアの技術と人間関係であるとしている。²⁾ この2つの要素は、個々の構成員の態度や行動様式に負うところが大きい。したがって、質保証文化を強化するためには、個々の構成員に変化を起こさせる必要がある。

看護職が専門職として潜在的に有す態度や行動様式は、実践行動を一定方向に向けて生起させるものであり、これらは看護の質の本質だと考えることができる。しかし、質保証のための組織的活動が医療施設に普及しつつある中で、看護職が有す本質的な要素と看護の質の水準を同時に測定し、前者が後者に対してどのように寄与しているか等の検討はあまり行われていなかった。

2. 研究の目的

看護の質の本質として看護職のプロフェッショナルリズムと職務モチベーションに着目し、両者を測定する尺度を作成し、これらの尺度に、既存の尺度である看護職の仕事実感に着眼した看護サービスの質評価尺度（仕事特性、職場風土、質の高いケアの実践程度、職務満足度、キャリア・アイデンティティの5領域37次元）と、患者の入院中の経験に着眼した看護サービスの質評価尺度（入院中の経験、全体的感想[満足度]の2領域19次元）、¹⁾及び看護の質と関連があるとされている臨床指標を加えた多施設調査を行い、プロフェッショナルリズムと職務モチベーションが看護のプロセス及びアウトカムに及ぼす影響を検討する。

3. 研究の方法

(1) プロフェッショナルリズム尺度案と職務モチベーション尺度日本語版案の作成

看護職のプロフェッショナルリズムについて、関連する先行研究と専門書を参考にグループディスカッションによって構成概念とその操作的定義を検討し、これらの概念を指標化するための質問項目プールを試作した。次に、質問項目案の妥当性を検討するため、有識者6名の意見を個別に聴き、臨床看護師を交えた看護研究者グループで議論して、98項目からなる案に整理した。

職務モチベーションについては、Gagneらが自己決定理論に基づいて開発したMultidimensional Work Motivation Scale (MWMS)³⁾を、尺度開発の経験者、英語圏の大学看護学部への留学経験者、臨床看護師を交えた看護研究者グループで翻訳し、質問のわかりやすさや日本語としての自然さ等について検討した。次に、英語教育が専門の大学教員の意見に基づいて修正したのちに、翻訳専門家に逆翻訳を依頼し、ネイティブスピーカーによる同等性のチェックを受けた。

続けて、これらの尺度案を精練するために予備調査を行った。

(2) 看護職のプロフェッショナルリズム及び職務モチベーションと仕事実感の関係並びにそれらと患者の入院時の経験及び看護の質に係る臨床指標の関係の検討

研究協力の同意が得られた病院に対して、看護職員調査票及び患者調査票の配布と各種臨床指標の提供を依頼した。

プロフェッショナルリズム尺度についてさらに項目分析及び信頼性・妥当性を検討して暫定版を作成した後に、看護職員のプロフェッショナルリズム、職務モチベーション、仕事実感、患者の入院時の経験、看護の質に係る臨床指標の相互の関係を検討した。

4. 研究成果

(1) プロフェッショナルリズム尺度と職務モチベーション尺度日本語版の作成

尺度作成のための予備調査として、3病院の看護部長に対して合計300部の調査票の配付を依頼した。回収数は287部で、研究参加に「同意する」にチェックがあったのは256部であった。

プロフェッショナルリズム尺度案について項目分析等を行った結果80項目に縮約された。MWMS日本語版案については構造方程式モデリングを行った結果、構成概念はほぼ原版と一致

していた。下位尺度は、[無動機づけ] [外発的動機づけ：外的調整 (社会的)] [同：外的調整 (物的)] [同：取り入的調整] [同：同一化的調整] [内発的動機づけ] で、外発的動機づけの統合的調整に関する質問項目は設定されていない。

本調査においては、看護職員対象の調査で 21 病院 150 部署の協力が得られた。2,980 部の配布を依頼し、回収数 2,625 部で、うち研究参加同意は 2,408 部であった。プロフェッショナルリズムについて、欠損値のない看護師のみの回答 2,180 部を用いて信頼性と妥当性を検討し、54 項目の暫定版を作成した。下位尺度は [看護専門職としての倫理観と行動特性] [業務遂行上の能力・自信] [キャリア・コミットメント] [専門職的自律] [患者中心の看護実践] [看護の社会的意義] である。

患者対象の調査は 10 病院 59 病棟で協力が得られ 1,020 部の配布を依頼し、回収数 739 部、研究参加同意は 676 部であった

(2) 個人レベルにおける看護職のプロフェッショナルリズム及び職務モチベーションと仕事実感の関係

プロフェッショナルリズム尺度暫定版の各下位尺度と、職務モチベーション尺度日本語版のうち [外発的動機づけ：同一化的調整] と [内発的動機づけ] は、看護職員の仕事実感の多くの次元とピアソンの相関係数(r)が 0.3 以上の正の相関があった。特に、プロフェッショナルリズムのうちの [キャリア・コミットメント] と職務モチベーションのうちの [外発的動機づけ：同一化的調整] と [内発的動機づけ] は共通して、《職務満足度》の [自己実現感] [職場への満足感] [仕事への満足感]、《キャリア・アイデンティティ》の [適合感] [有意味感] と $r \geq 0.5$ の相関が認められた。このほかプロフェッショナルリズムの [患者中心の看護実践] は《質の高いケアの実践程度》の 9 次元のうち 7 次元と $r \geq 0.5$ の相関があり、[看護専門職としての倫理観と行動特性] は同じく 9 次元中 3 次元との間で $r \geq 0.5$ の相関が認められた。

(3) 部署レベルにおける看護職のプロフェッショナルリズム及び職務モチベーションと仕事実感の関係並びにそれらと患者の入院時の経験及び看護の質に係る臨床指標の関係

看護職員対象の調査の部署単位の分析では、21 病院 150 部署のうち有効回答が 8 部以上であった 141 部署のデータを用いた。患者対象の調査の病棟単位での分析では、有効回答が 8 部以上であった 44 病棟のデータを用いた。臨床指標については各病棟で指標ごとに有効であったデータを用いた。

プロフェッショナルリズム尺度暫定版と職務モチベーション尺度日本語版を使用して測定した結果が、看護職員の仕事実感、患者の入院中の経験、患者に生じた有害事象のそれぞれと相関があるか分析した。プロフェッショナルリズムの各下位尺度及び職務モチベーションのうち [外発的動機づけ：同一化的調整] と [内発的動機づけ] は、看護職員の《キャリア・アイデンティティ》、《職務満足度》及び《質の高いケアの実践程度》の大部分と $r \geq 0.3$ の相関があった。また、[外発的動機づけ：同一化的調整] と [内発的動機づけ] は、患者が感じた [看護への全般的満足] 及び [病院への全般的満足] と $r \geq 0.3$ の相関があった。[専門職的自律] は [病院への全般的満足] や [看護職員の知識・技術への信頼] との間で $r \geq 0.3$ の相関があり、[内発的動機づけ] は、[看護職員の知識・技術への信頼] と $r \geq 0.3$ の相関が認められた。

看護職員の仕事実感の各次元のうち、《患者の満足度》の 5 次元中 2 次元以上で $r \geq 0.3$ の相関が認められたのは、[仕事・学習への自己投入] [患者エンパワメント] [ていねいな対応] [医師との関係] であった。患者の [看護職員の知識・技術への信頼] と $r \geq 0.3$ の相関があった看護職員の仕事実感の次元は [自己効力感] [自己決定感] [仕事・学習への自己投入] [ていねいな対応] [患者・家族への情報提供] [疼痛管理] [医師との関係] であった。

有害事象を表す臨床指標ではスピアマンの順位相関係数が -0.3 以下 (負の相関) のものは少数であったが、統計学的には、[誤薬発生率] は《看護職の職務満足度》の [職場への満足] [仕事への満足] [給与への満足] [評価への満足] と負の相関があり ($p < 0.05$)、[身体拘束率] も [職場への満足] [給与への満足] と負の相関 ($p < 0.05$) があった。しかし、その他の領域では一定の傾向は認められなかった。

以上より、看護職のプロフェッショナルリズムと職務モチベーションは、彼らの実践行動に深く関わり、患者の満足度や看護職への信頼に繋がっていることが明らかになった。

<引用文献>

- 1) 菅田勝也 (編著).『看護管理に生かすベンチマーキングー看護サービスの質改善のためにー』中山書店：東京，2012.
- 2) Donabedian A. The quality of care. How can it be assessed? JAMA. 260: 1743-1748, 1988.
- 3) Gagne M, Forest J, Vansteenkiste M, et al. The Multidimensional Work Motivation Scale: validation evidence in seven languages and nine countries. Euro J Work Organizational Psychol. 24: 178-196, 2015.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大西 麻未 (Onishi Mami) (10451767)	順天堂大学・医療看護学部・准教授 (32620)	
研究分担者	八幡 久美子 (Yahata Kumiko) (90766867)	森ノ宮医療大学・看護学部・講師 (34448)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関